

## ．調査の結果

### 第1節 計画的、総合的な行政の推進について

#### 1-1 取り組みに対する評価（問31）

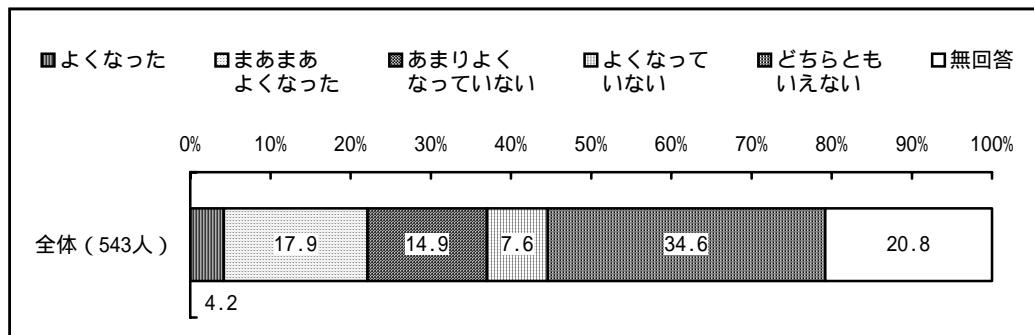
「計画的・効率的な行政運営」は、「よくなった」が約2割、「よくなっていない」も約2割。

総合計画の策定や行政改革の進捗管理など、計画的・効率的な行政運営については「よくなった」が4.2%、「まあまあよくなった」が17.9%で、あわせると「よくなった」が22.1%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が14.9%、「よくなっていない」が7.6%で、あわせると「よくなっていない」が22.5%を占めています。

図 計画的・効率的な行政運営

（回答者総数：543人）



## 1-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『住民ニーズに対応した行政サービスの高度化』では6割以上。

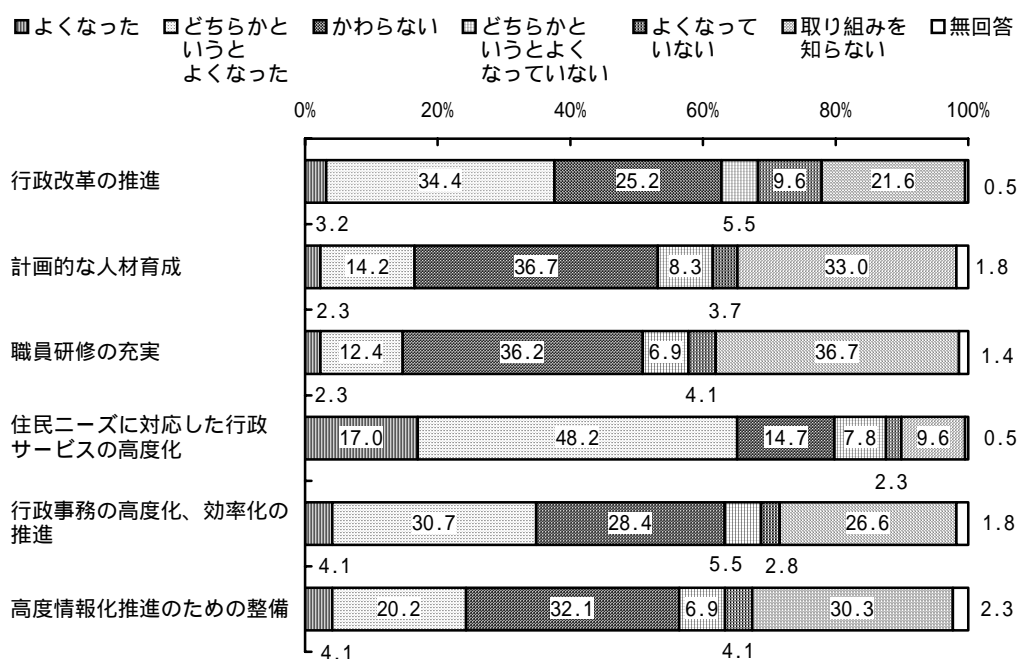
各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”が、『住民ニーズに対応した行政サービスの高度化』では65.2%と6割以上を占め高い評価を得ています。

その一方、『計画的な人材育成』では16.5%、『職員研修の充実』では14.7%と2割を下回り評価が低くなっています。

また、「取り組みを知らない」が『職員研修の充実』、『計画的な人材育成』、『高度情報化推進のための整備』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



### 1-3 関連設問

#### (1) 受益者負担と行政サービスの関係 (問12)

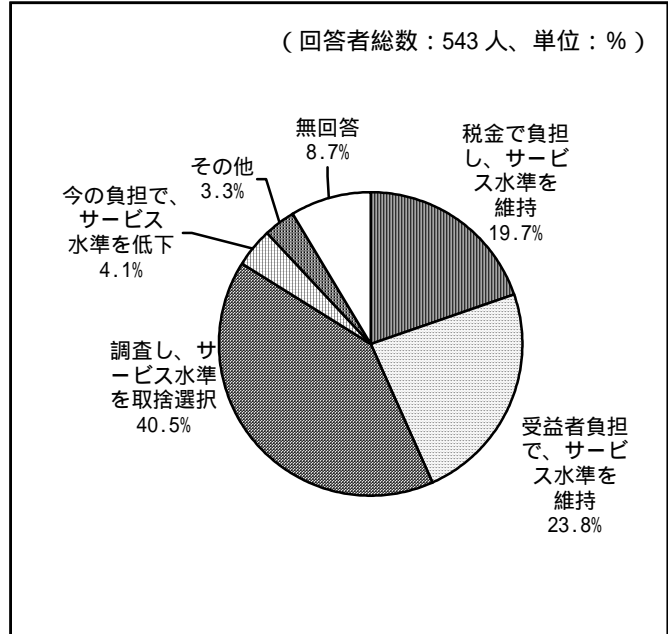
「市民ニーズを調査し、サービス水準を取捨選択」するが、4割を占める。

国や各自治体においては、厳しい財政状況が続いています。

受益者(利用者)負担と行政サービスの関係についてたずねたところ、「市民ニーズを調査し、サービス水準を取捨選択」するが40.5%で最も高くなっています。

次いで、「受益者負担でサービス水準を維持」が23.8%、「税金で負担し、サービス水準を維持」が19.7%が続いています。

図 受益者負担と行政サービスの関係



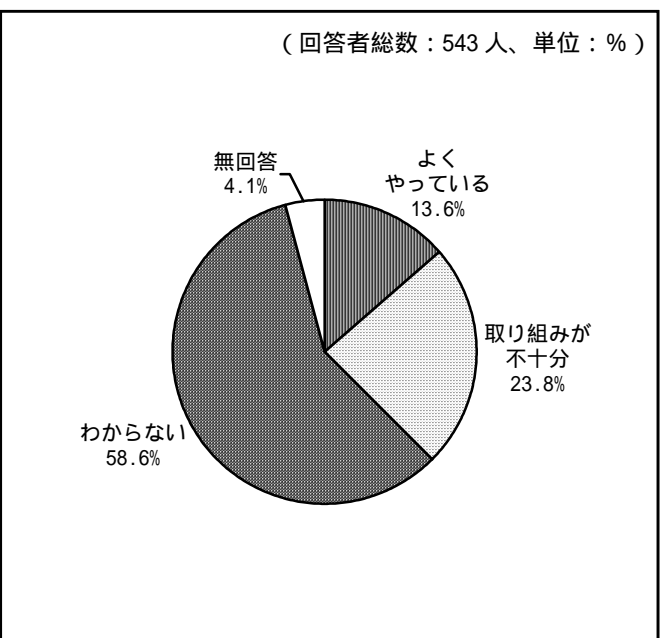
#### (2) 行政改革に対する評価 (問13)

「よくやっている」が1割強、「取り組みが不十分」が2割強。

行政改革に対する評価は、「わからない」が58.6%で最も高くなっています。

一方、「よくやっている」が13.6%、「取り組みが不十分」が23.8%を占めています。

図 行政改革に対する評価



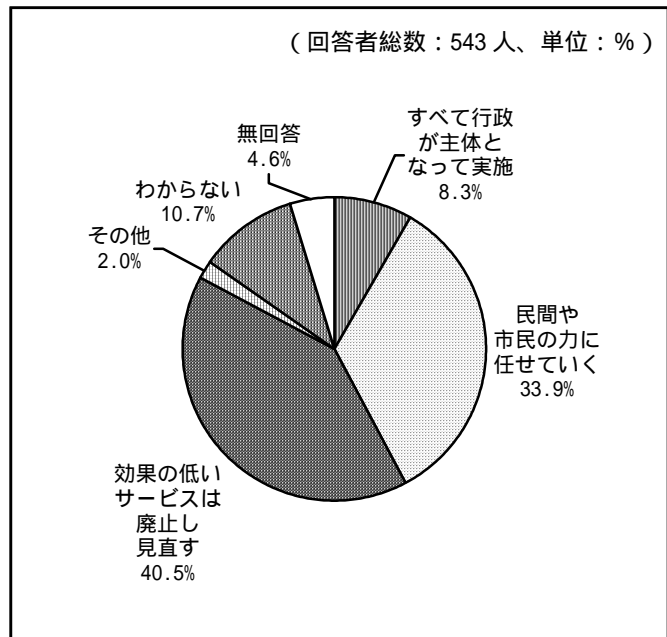
(3) 今後の行政サービスのあり方(問14)

「効果の低いサービスは廃止し見直す」が約4割。

今後の行政サービスのあり方について、たずねたところ、「効果の低いサービスは廃止し見直す」が40.5%で最も高くなっています。

次いで「民間や市民の力に任せていく」が33.9%、「すべて行政が主体となって実施」は8.3%に止まっています。

図 今後の行政サービスのあり方

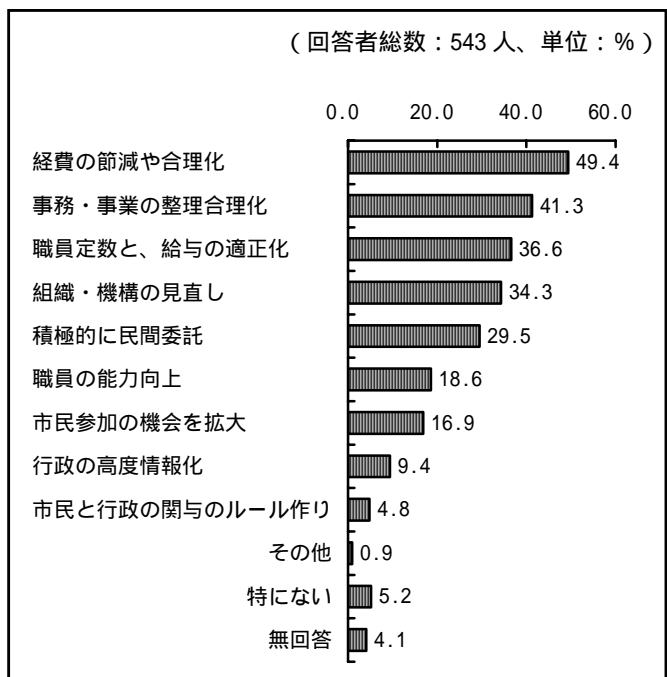


(4) 優先的に取り組むべきこと(問15)

「経費の節減や合理化」が約5割。

今後、さらに行政改革をすすめるため、優先的に取り組むべきことをたずねたところ、「経費の節減や合理化」が49.4%で最も高く、次いで「事務・事業の整理合理化」が41.3%、「職員定数と、給与の適正化」が36.6%で続いています。

図 優先的に取り組むべきこと(複数回答)



## 第2節 行政施設の整備について

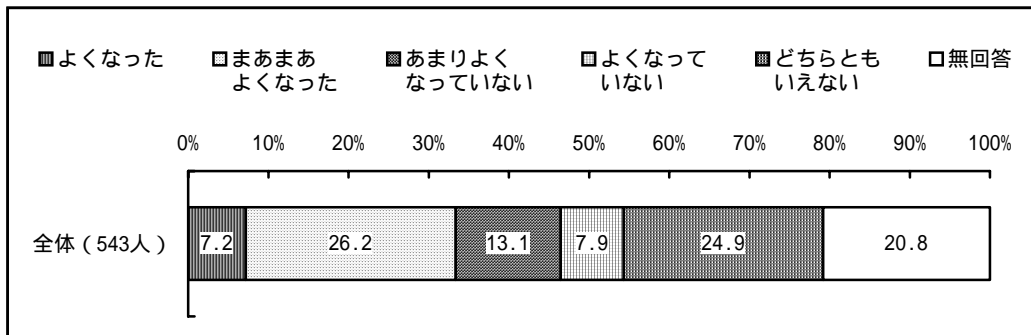
### 2-1 取り組みに対する評価（問31）

「行政施設の整備」は、“よくなった”が約3割、“よくなっていない”が約2割。

行政施設の建設・改修など、行政施設の整備については「よくなった」が7.2%、「まあまあよくなった」が26.2%で、あわせると“よくなった”が33.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が13.1%、「よくなっていない」が7.9%で、あわせると“よくなっていない”が21.0%です。

図 行政施設の整備 (回答者総数：543人)

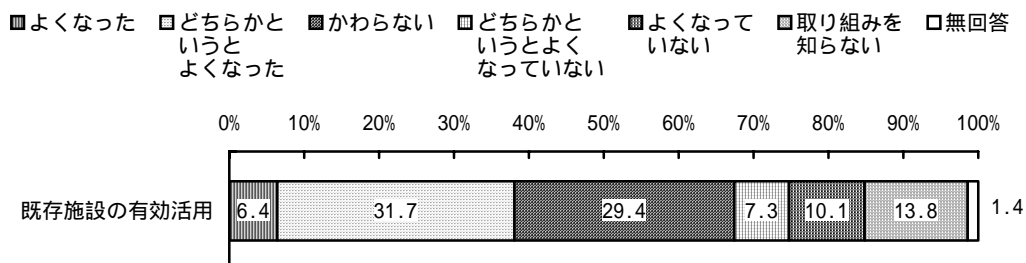


### 2-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『既存施設の有効活用』では38.1%。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が『既存施設の有効活用』では38.1%となっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



## 第3節 健全な財政運営について

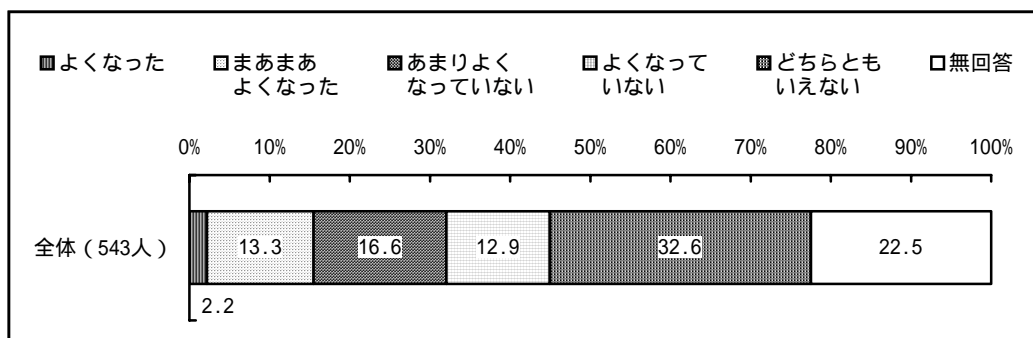
### 3-1 取り組みに対する評価（問31）

「健全な財政運営」は、“よくなった”が2割弱、“よくなっていない”は約3割。

納税啓発や歳入・歳出の執行管理など、健全な財政運営については「よくなった」が2.2%、「まあまあよくなった」が13.3%で、あわせると“よくなった”が15.5%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が16.6%、「よくなっていない」が12.9%で、あわせると“よくなっていない”が29.5%を占めています。

図 健全な財政運営 (回答者総数：543人)



## 第4節 広域的な視点によるまちづくりの推進について

### 4-1 取り組みに対する評価（問31）

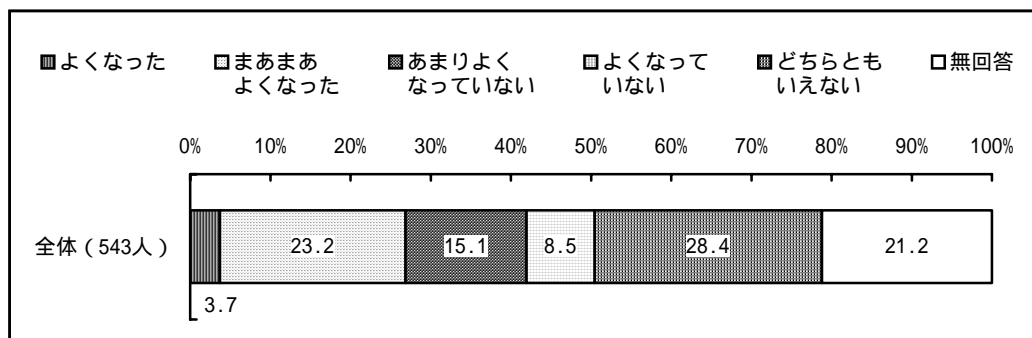
「広域的なまちづくり」は、“よくなった”が3割強、“よくなっていない”が2割強。

印旛都市広域行政圏計画の推進など、広域的な視点によるまちづくりについては、「よくなった」が3.7%、「まあまあよくなった」が23.2%で、あわせると“よくなった”が26.9%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が15.1%、「よくなっていない」が8.5%で、あわせると“よくなっていない”が23.6%です。

図 広域的な視点によるまちづくり

（回答者総数：543人）



## 第5節 市民に開かれたシステムの確立について

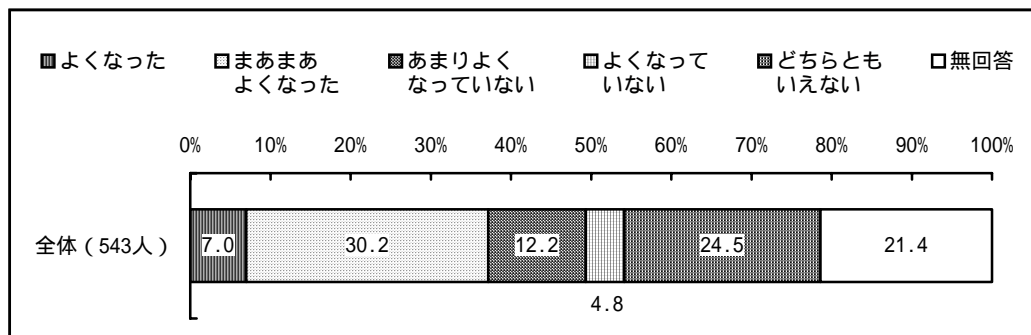
### 5-1 取り組みに対する評価（問31）

「市民に開かれたシステムの確立」は、“よくなった”が4割弱、“よくなっていない”が2割弱。

広報紙の発行や市民参加機会の確保など、市民に開かれたシステムの確立については、「よくなった」が7.0%、「まあまあよくなった」が30.2%で、あわせると“よくなった”が37.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が12.2%、「よくなっていない」が4.8%で、あわせると“よくなっていない”が17.0%です。

図 市民に開かれたシステムの確立 (回答者総数：543人)





## 5-2 施策に対する満足度（満足度評価）

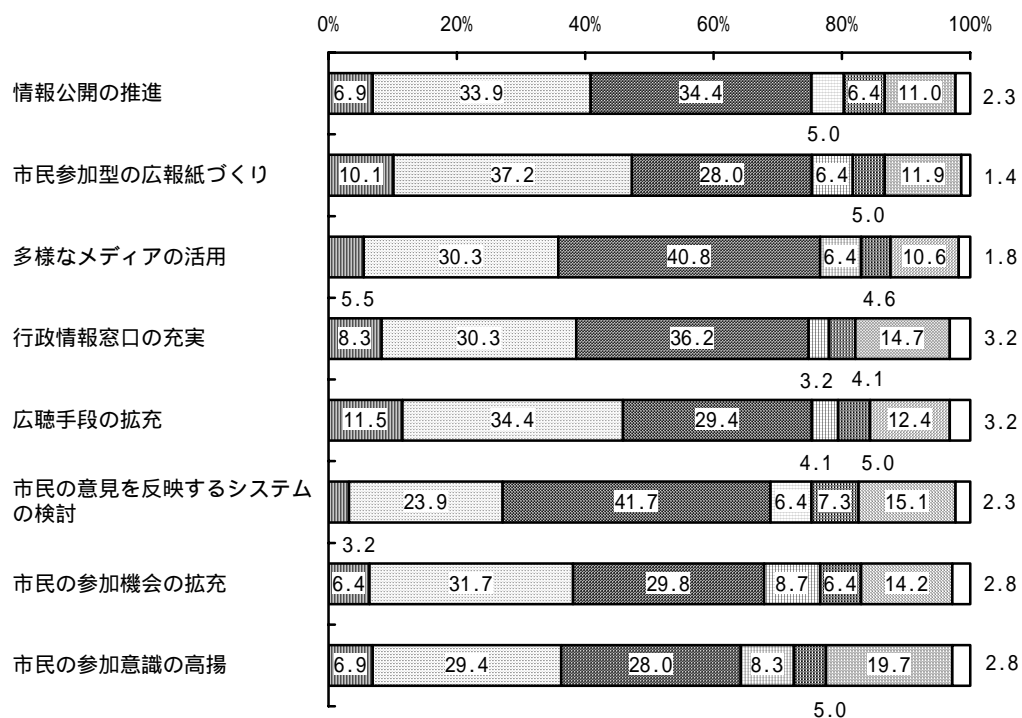
“よくなった”が『市民参加型の広報紙づくり』、『広聴手段の拡充』、『情報公開の推進』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『市民参加型の広報紙づくり』では47.3%、『広聴手段の拡充』では45.9%、『情報公開の推進』では40.8%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）

よくなった   
  どちらかというよくなった   
  かわらない   
  どちらかというよくなっていない   
  よくなっていない   
  取り組みを知らない   
  無回答



### 5-3 関連設問

#### (1) 現在、活用している広報手段(問7)

『こうほう佐倉』や『町内の回覧版』、『新聞・テレビ・ラジオ』が比較的高い。

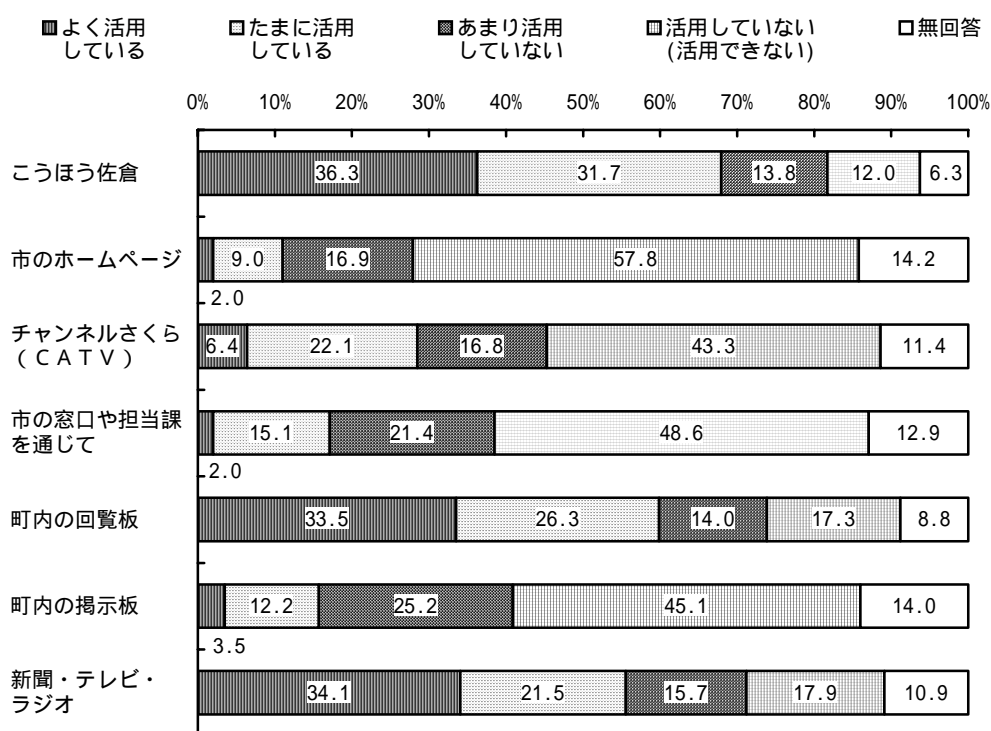
市では、様々な広報手段を用いて、市民の皆さまへの情報提供に努めています。

現在、活用している広報手段をたずねたところ、「よく活用している」と「たまに活用している」をあわせた“活用している”は『こうほう佐倉』が68.0%、『町内の回覧版』が59.8%、『新聞・テレビ・ラジオ』が55.6%で比較的高くなっています。

その一方、「あまり活用していない」と「活用していない(活用できない)」をあわせた“活用していない”は『市のホームページ』が74.7%、『市の窓口や担当課を通じて』が70.0%、『町内の掲示板』が70.3%で高くなっています。

図 現在、活用している広報手段

(回答者総数：543人)



(2) 今後、活用したい広報手段(問7)

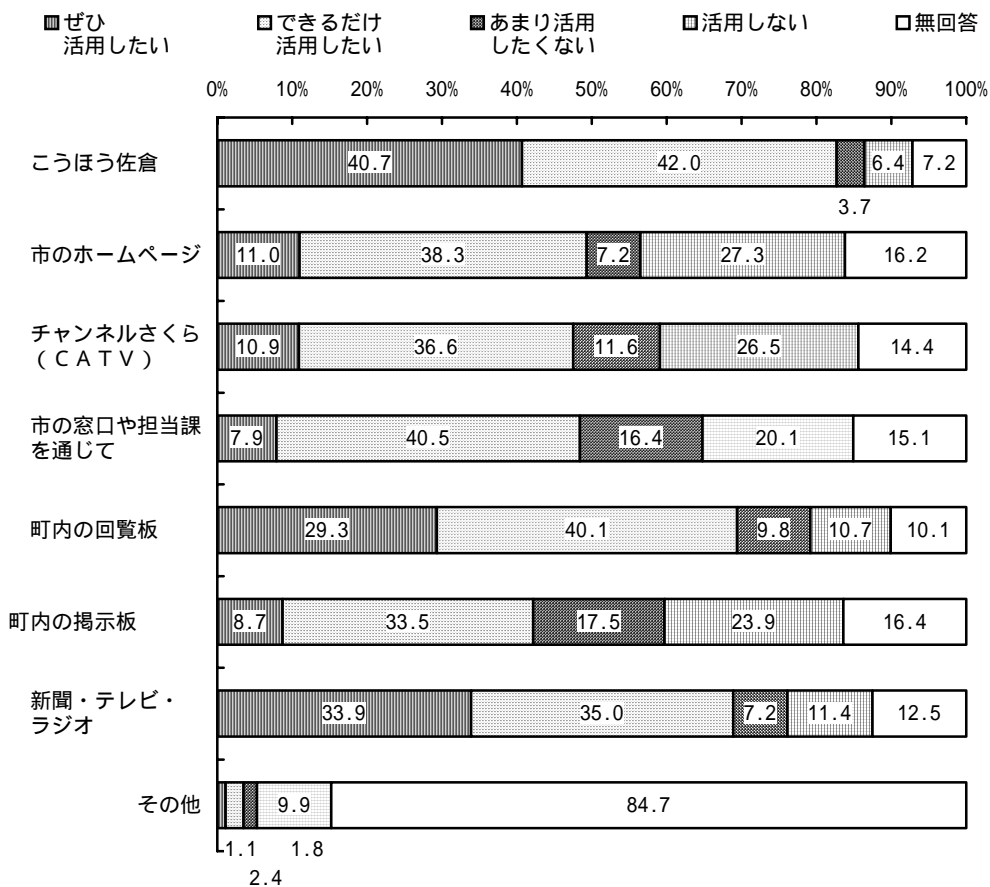
『市のホームページ』や『チャンネルさくら(CATV)』、『市の窓口や担当課を通じて』の今後の活用意向は約半数。

今後、活用したい広報手段をたずねたところ、「ぜひ活用したい」と「できるだけ活用したい」をあわせた“活用したい”は『こうほう佐倉』が82.7%で特に高く、『町内の回覧版』が69.4%、『新聞・テレビ・ラジオ』が68.9%で続いています。

その一方、現在、活用している広報手段として活用状況が低い『市のホームページ』の意向は49.3%、『チャンネルさくら(CATV)』が47.5%、『市の窓口や担当課を通じて』が48.4%です。また、『町内の掲示板』の活用意向は42.2%です。

図 今後、活用したい広報手段

(回答者総数：543人)



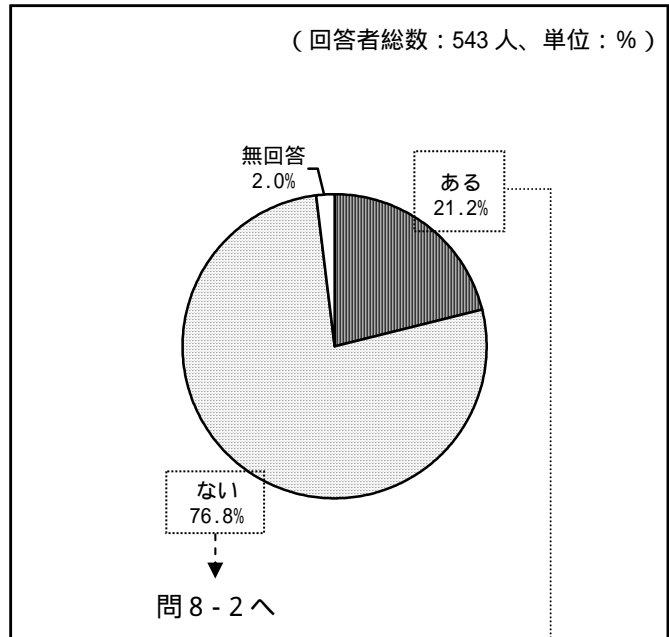
(3) 意見や要望を市に伝えたことの有無(問8)

「ある」が約2割。

意見や要望を市に伝えたことの有無をたずねたところ、「ある」が21.2%を占めています。

その一方、「ない」が76.8%です。

図 意見や要望を市に伝えたことの有無



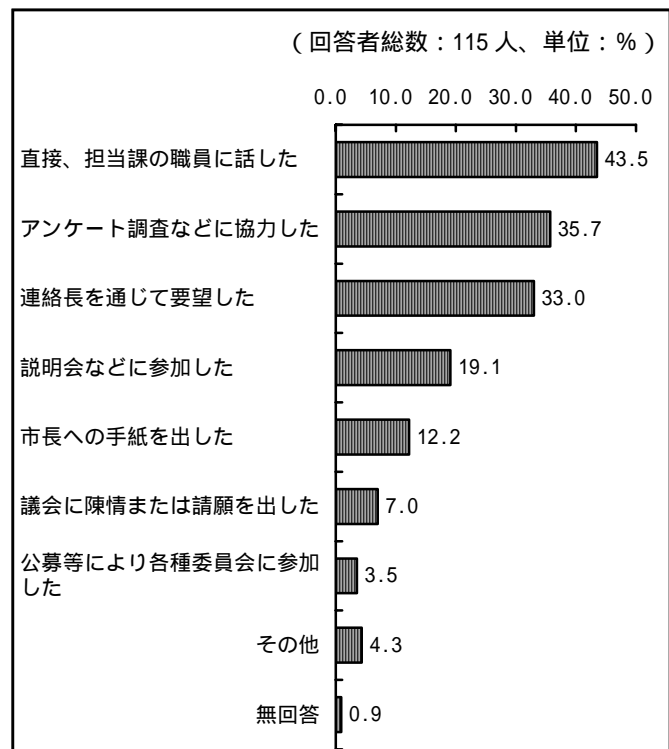
(4) 伝えたときの手段(問8-1)

“直接、担当課へ”が最も高く、次いで“アンケート調査”、“連絡長を通じて”。

意見や要望を市に伝えたことがあると回答した人に、その際の方法や手段をたずねました。

その結果、「直接、担当課の職員に話した」が43.5%で最も高く、次いで「アンケート調査などに協力した」が35.7%、「連絡長を通じて要望した」が33.0%で続いています。

図 伝えたときの手段(複数回答)



(5) 今後、伝える場合の手段(問8-2)

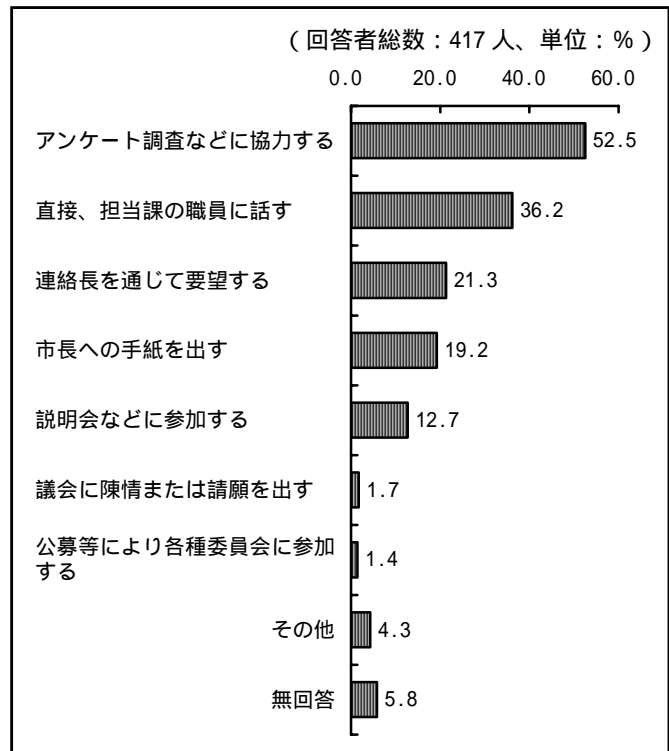
「アンケート調査などに協力する」が約半数。

意見や要望を市に伝えたことがないと回答した人に、今後、市に対する意見・要望を伝える際の手段をたずねました。

その結果、「アンケート調査などに協力する」が52.5%で最も高くなっています。

次いで、「直接、担当課の職員に話す」が36.2%、「連絡長を通じて要望する」が21.3%で続いています。

図 今後、伝える場合の手段(複数回答)



(6) 市政やまちづくりへのかかわり方(問9)

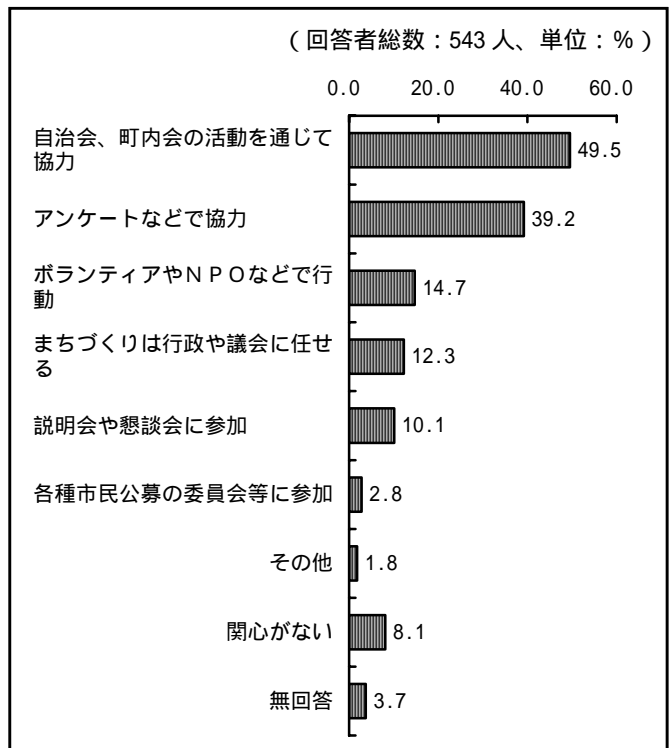
「自治会、町内会の活動を通じて協力」が約半数。次いで「アンケートなどで協力」。

まちづくりは市民の皆さまの協力が不可欠です。

今後、どのような形で市政やまちづくりにかかわっていきたいかについて、たずねたところ、「自治会、町内会の活動を通じて協力」が49.5%で最も高く、次いで「アンケートなどで協力」が39.2%で続いています。

また、「ボランティアやNPOなどで行動」も14.7%になっています。

図 市政やまちづくりへのかかわり方(複数回答)



(7) 情報公開条例の周知度(問16)

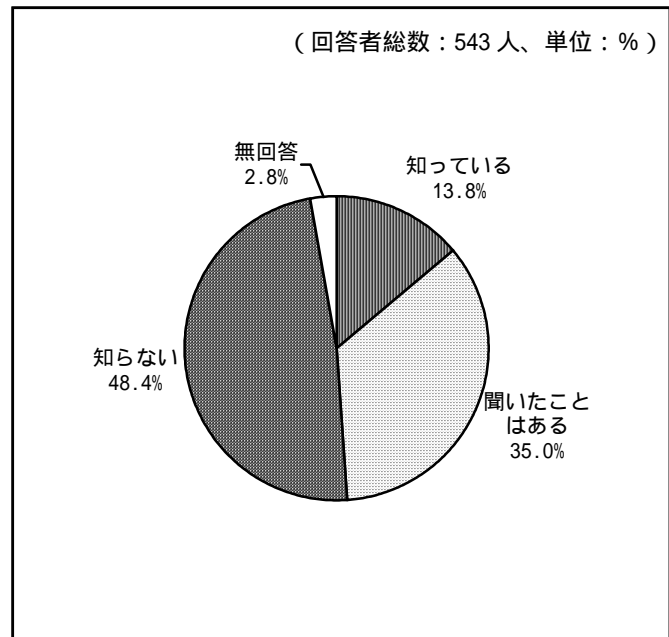
「知っている」は13.8%。

市では、平成8年10月より佐倉市情報公開条例を運用しています。

この情報公開条例の周知度をたずねたところ「知っている」は13.8%です。

その一方、「聞いたことはある」が35.0%、「知らない」が48.4%を占めています。

図 情報公開条例の周知度



## 第6節 コミュニティ活動の推進について

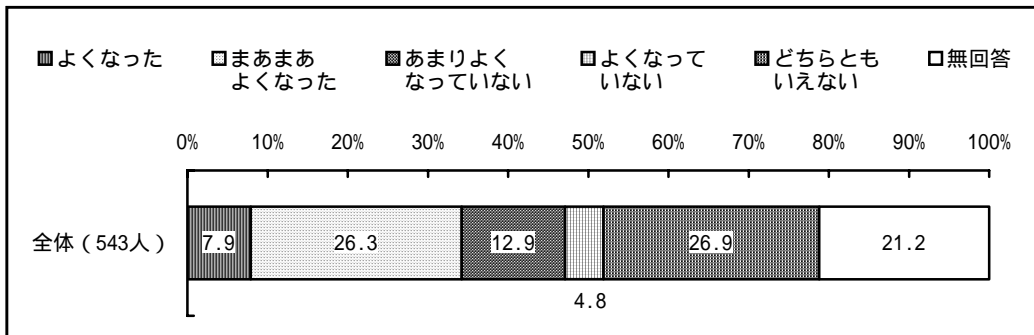
### 6-1 取り組みに対する評価（問31）

「コミュニティ活動の推進」は、“よくなった”が3割強、“よくなっていない”が2割弱。

コミュニティ活動の支援など、コミュニティ活動の推進については、「よくなった」が7.9%、「まあまあよくなった」が26.3%で、あわせると“よくなった”が34.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が12.9%、「よくなっていない」が4.8%で、あわせると“よくなっていない”が17.7%です。

図 コミュニティ活動の推進 (回答者総数：543人)

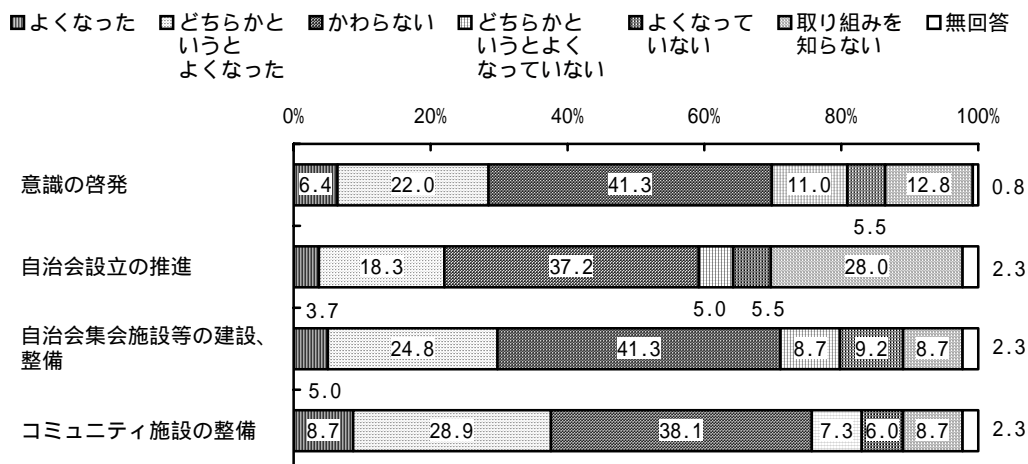


### 6-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『自治会設立の推進』で“よくなった”が2割程度。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『自治会設立の推進』で22.0%と2割程度となっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



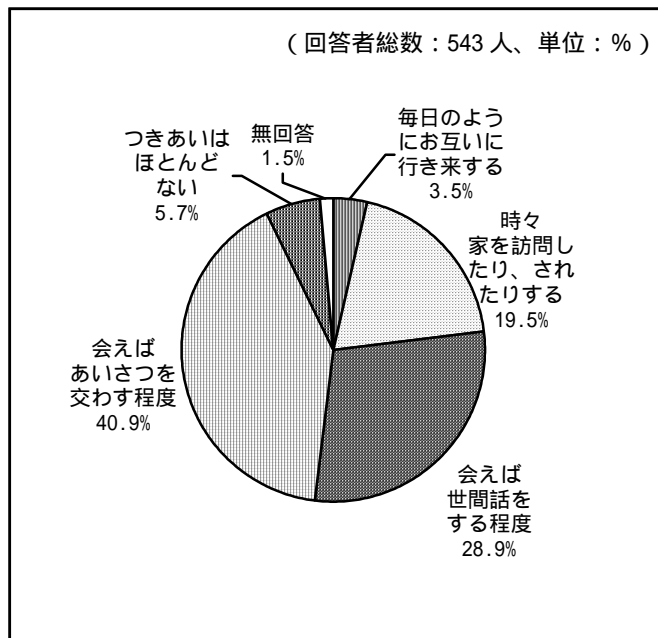
### 6-3 関連設問

#### (1) 近所づきあいの程度 (問17)

「会えばあいさつを交わす程度」が4割。

近所づきあいの程度をたずねたところ、「会えばあいさつを交わす程度」が40.9%で最も高く、次いで「会えば世間話をする程度」が28.9%、「時々家を訪問したり、されたりする」が19.5%が続いています。

図 近所づきあいの程度



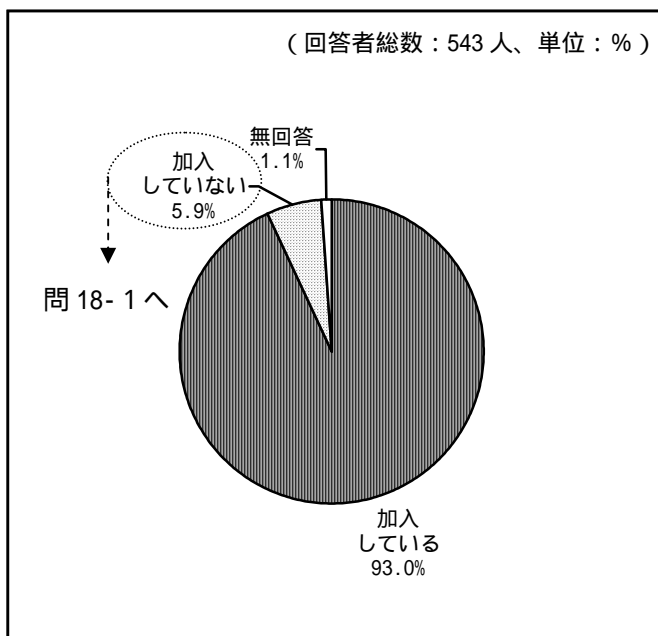
#### (2) 自治会・町内会への加入の有無 (問18)

「加入している」が9割以上。

市民(世帯)の自治会・町内会への加入状況をたずねたところ、「加入している」が93.0%で大半を占めています。

その一方、「加入していない」が5.9%です。

図 自治会・町内会への加入の有無





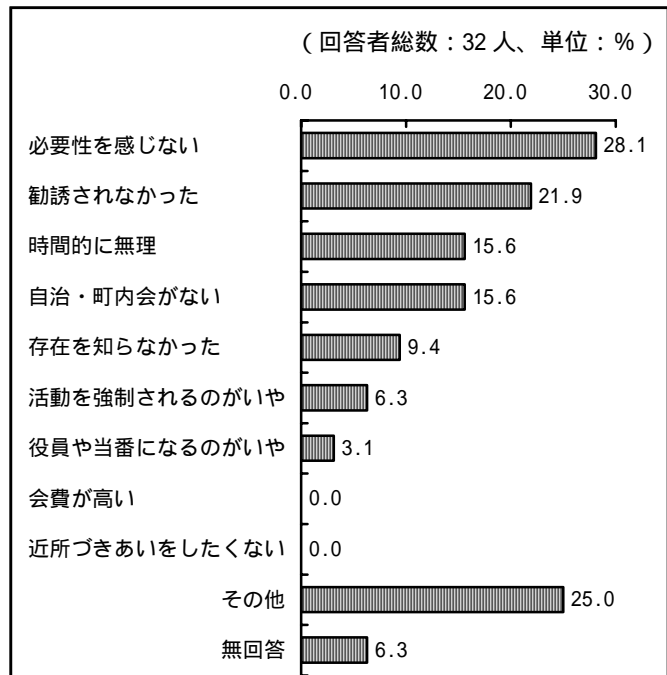
(3) 未加入の理由(問18-1)

「必要性を感じない」が最も高い。

市民(世帯)が自治会・町内会に「加入していない」と回答した人に未加入の理由をたずねました。

その結果、「必要性を感じない」が28.1%、「勧誘されなかった」が21.9%です。

図 未加入の理由(複数回答)

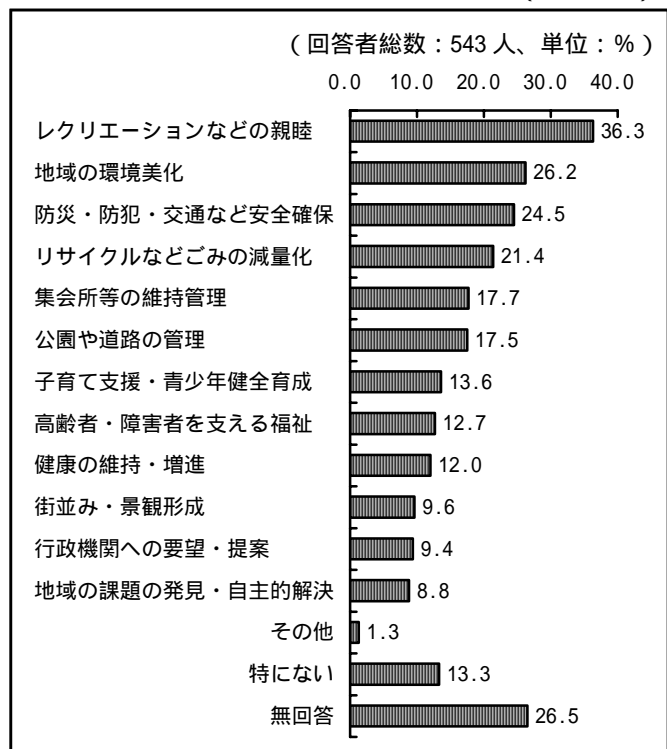


(4) 現在の自治会・町内会活動への参加の有無(問19)

「レクリエーションなどの親睦」が4割弱。

現在、住んでいる地域の自治会・町内会活動への参加の有無をたずねたところ、「レクリエーションなどの親睦」が36.3%で最も高く、次いで「地域の環境美化」が26.2%、「防災・防犯・交通など安全確保」が24.5%で続いています。

図 現在の自治会・町内会活動への参加の有無(複数回答)

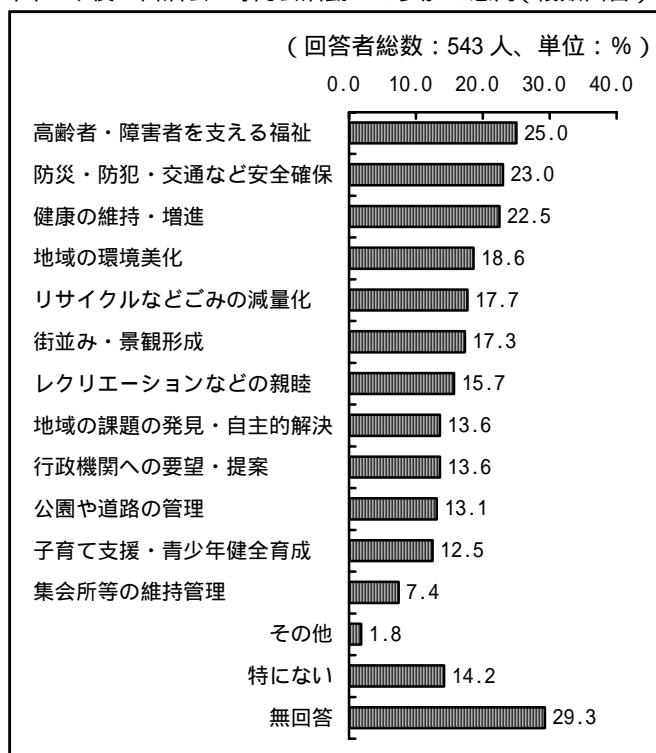


(5) 今後の自治会・町内会活動への参加の意向(問19)

「高齢者・障害者を支える福祉」が高い。

今後、住んでいる地域の自治会・町内会活動への参加の意向をたずねたところ、「高齢者・障害者を支える福祉」の活動が25.0%で最も高く、次いで「防災・防犯・交通など安全の確保」が23.0%、「健康の維持・増進」が22.5%で続いています。

図 今後の自治会・町内会活動への参加の意向(複数回答)



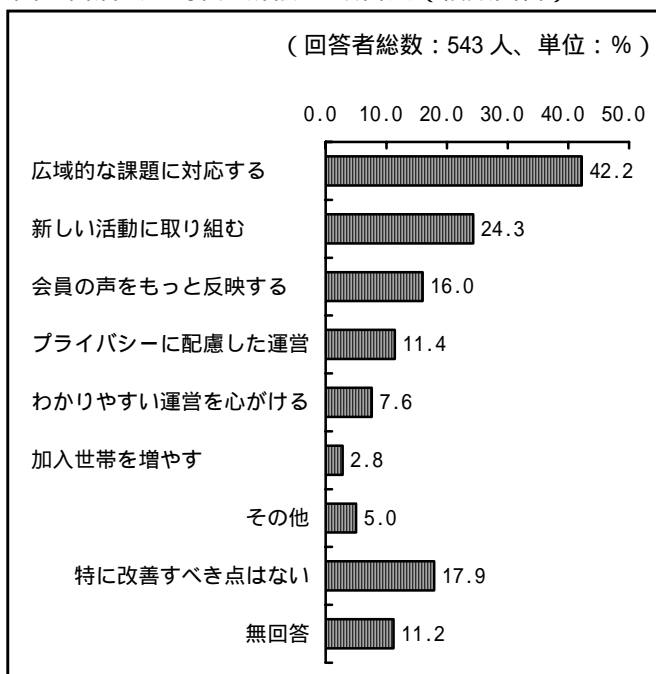
(6) 自治会・町内会活動の改善点(問20)

防犯や福祉などの「広域的な課題に対応する」が最も高い。

現在、住んでいる地域の自治会・町内会活動の改善すべき点についてたずねたところ、「防犯や福祉などの「広域的な課題に対応する」が42.2%で最も高くなっています。

次いで、活動のマンネリ化を防ぎ「新しい活動に取り組む」が24.3%で続いています。

図 自治会・町内会活動の改善点(複数回答)



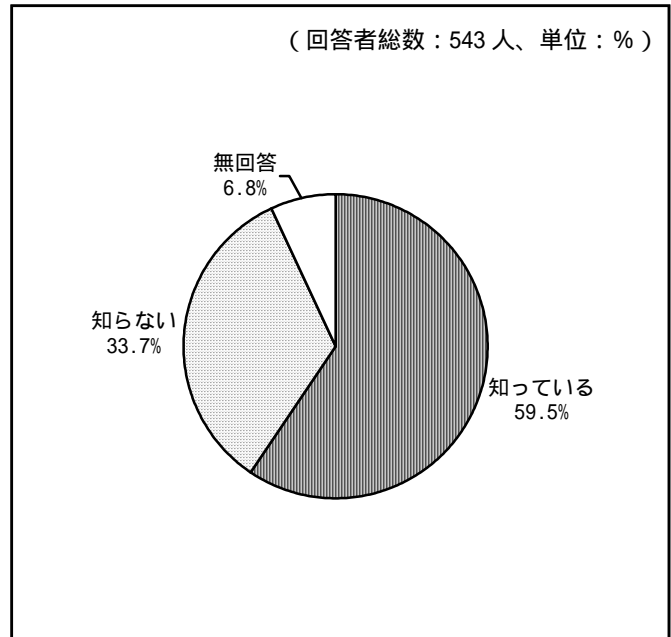
(7) 連絡長制度の周知度 (問 21)

「知っている」が6割。

市では、各地区の連絡長に市からのお知らせ文書の配布や、市政に対する要望の提出をお願いしています。

この連絡長制度の周知度をたずねたところ「知っている」が59.5%を占めています。その一方、「知らない」が33.7%です。

図 連絡長制度の周知度



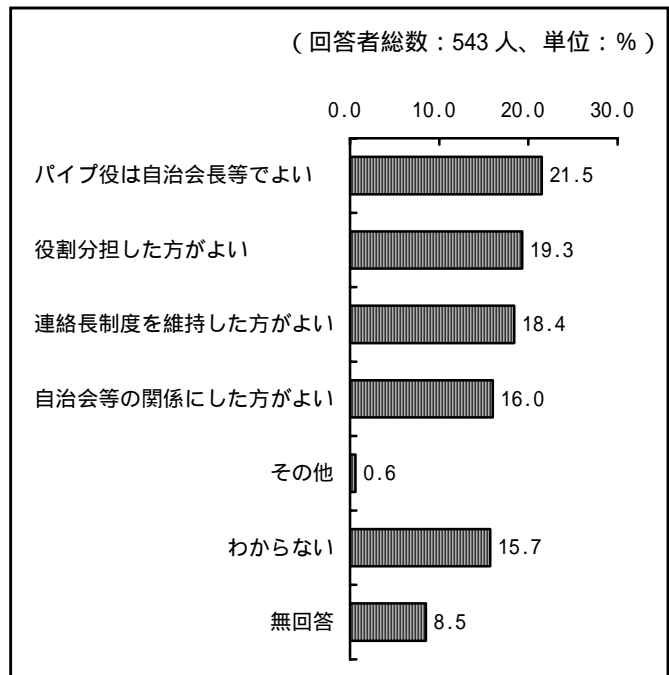
(8) 行政と自治会・町内会の望ましい関係 (問 22)

行政との「パイプ役は自治会長等でよい」が、やや高い。

連絡長をされている方の中には、自治会長、町内会長、区長などの役職も兼務されている場合が多くあります。

今後、行政と自治会・町内会の望ましい関係についてたずねたところ、行政との「パイプ役は自治会長等でよい」が21.5%で高く、次いで、同じ人に役割が集中しないように「役割分担した方がよい」が19.3%で続いています。

図 行政と自治会・町内会の望ましい関係



(9) 地区の集会所の利用有無(問23)

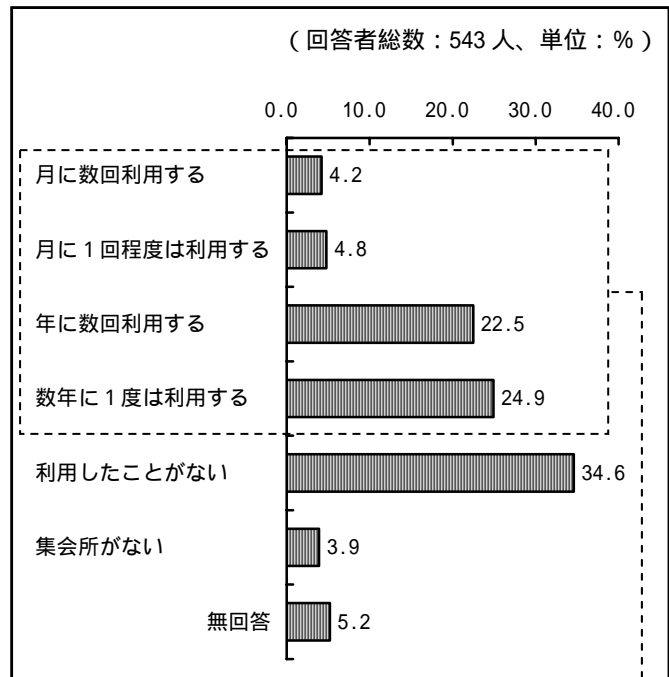
「利用したことがない」が3割以上。

地区の集会所の利用有無をたずねたところ、「利用したことがない」が34.6%で最も高くなっています。

また、「数年に一度は利用する」が24.9%、「年に数回利用する」が22.5%が続いています。

その一方、「月に数回利用する」は4.2%、「月に1回程度は利用する」は4.8%であわせても1割を下回ります。

図 地区の集会所の利用有無



(10) 地区の集会所を利用した目的(問23-1)

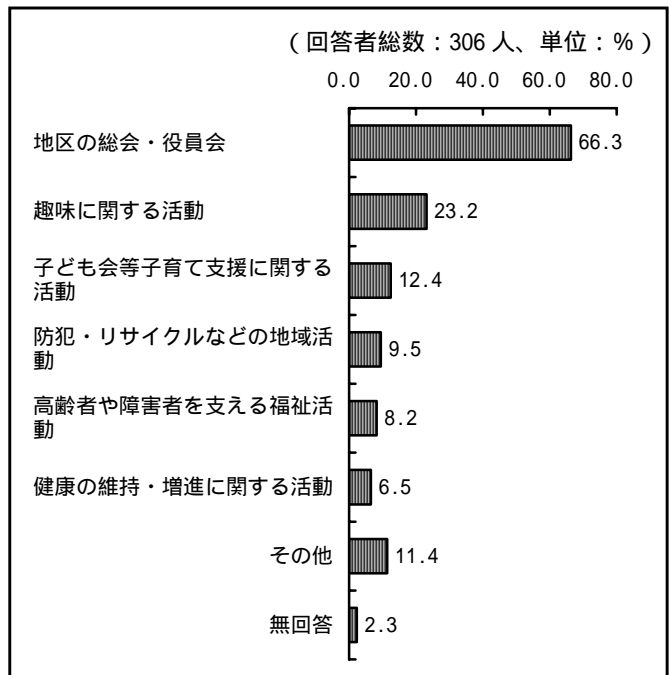
「地区の総会・役員会」が多くを占める。

地区の集会所を利用したことがある人に、集会所を利用した目的をたずねました。

その結果、「地区の総会・役員会」が66.3%で特に高くなっています。

次いで、「趣味に関する活動」が23.2%、「子ども会等子育て支援に関する活動」が12.4%が続いています。

図 地区集会所を利用した目的(複数回答)



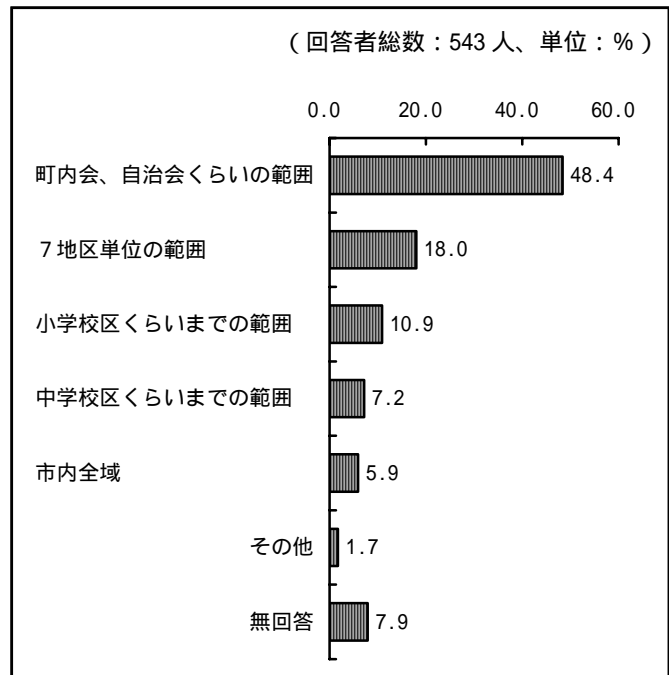
(11) 身近さを感じるコミュニティの範囲 (問 24)

「町内会、自治会くらいの範囲」が半数。

住民が一体感や身近さを感じられるコミュニティの範囲をたずねたところ、「町内会、自治会くらいの範囲」が 48.4%で最も高くなっています。

次いで、佐倉、根郷、和田、弥富、臼井、千代田、志津の「7地区単位の範囲」が18.0%で続いています。

図 身近さを感じるコミュニティの範囲



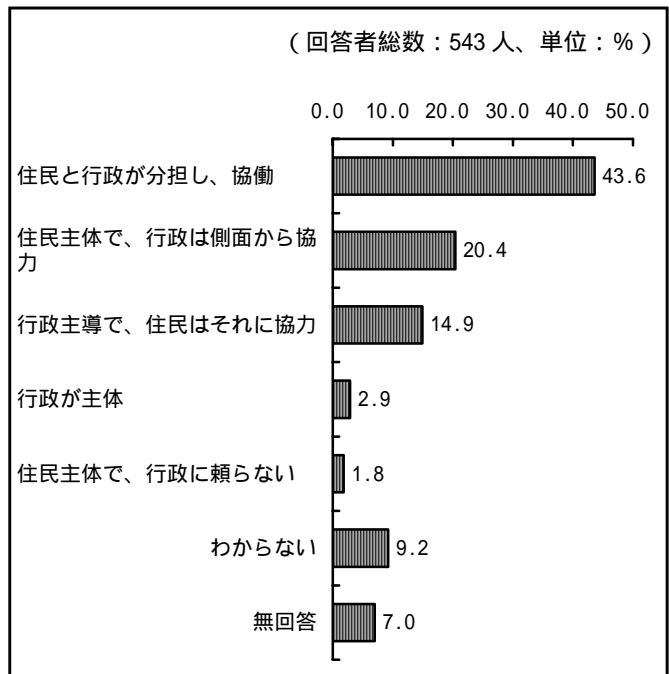
(12) 住みよいまちづくりへの考え方 (問 25)

「住民と行政が分担し、協働」が進めるが4割以上。

住んでいる地域をより住みやすくするために、どのようなまちづくりの考え方が大切か、たずねたところ「住民と行政が分担し、協働」が進めるが 43.6%で、最も高くなっています。

次いで、「住民主体で、行政は側面から協力」するが 20.4%、「行政主導で、住民はそれに協力」するが 14.9%で続いています。

図 住みよいまちづくりへの考え方



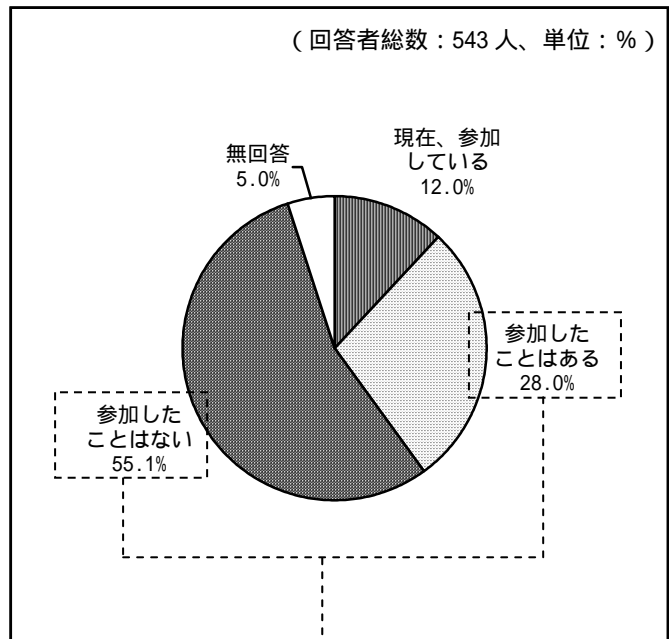
(13) 地域づくりや社会貢献活動への参加の有無 (問 26)

「参加したことはない」が約半数。

これまでに地域活動やボランティア、NPO等の地域づくりや社会貢献活動への参加の有無をたずねたところ、「参加したことはない」が55.1%を占めています。

その一方、「現在、参加している」が12.0%、過去に「参加したことはある」が28.0%です。

図 地域づくりや社会貢献活動への参加の有無



(14) 今後の参加意向 (問 26 - 1)

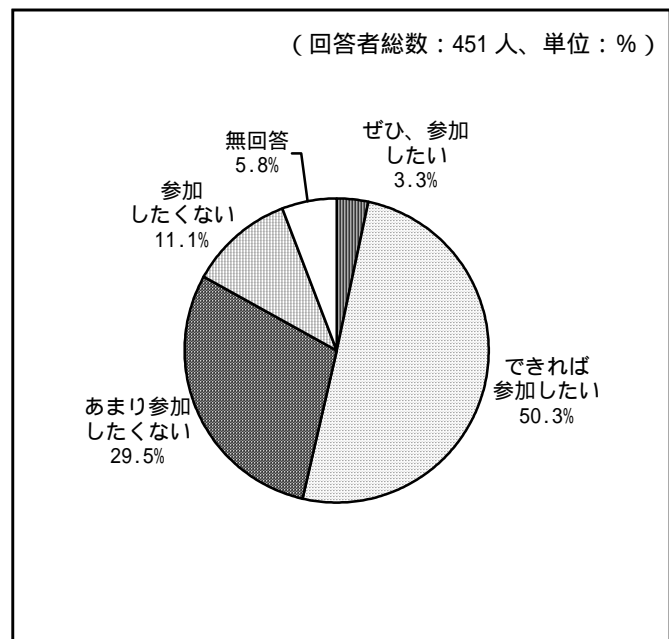
“参加したい”が5割強。  
一方、“参加したくない”が4割。

過去に「参加したことはある」もしくは「参加したことはない」と回答した人に、今後の参加意向をたずねました。

その結果、「ぜひ、参加したい」が3.3%、「できれば参加したい」が50.3%で、あわせると“参加したい”が53.6%を占めています。

その一方、「あまり参加したくない」が29.5%、「参加したくない」が11.1%で、あわせると“参加したくない”が40.6%です。

図 今後の参加意向



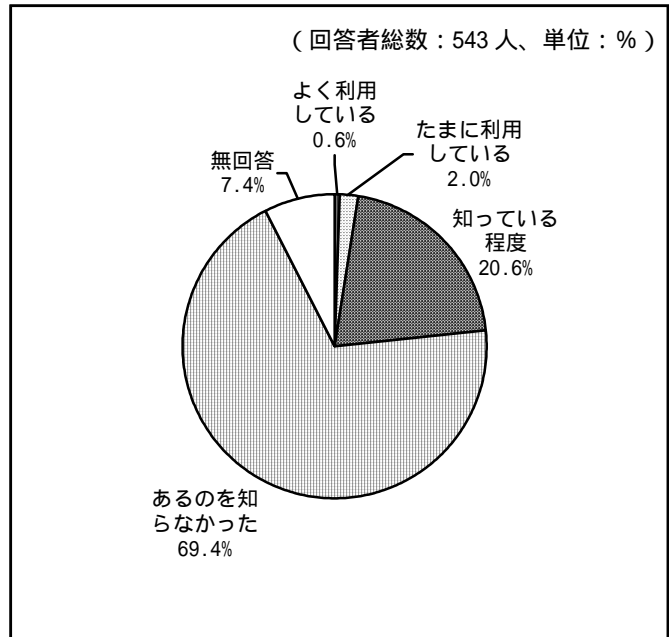
(15) 「市民公益活動サポートセンター」の利用の有無 (問 27)

“利用している”は2.6%。

「市民公益活動サポートセンター」の利用の有無をたずねたところ「よく利用している」が0.6%、「たまに利用している」が2.0%で、あわせると“利用している”が2.6%です。また、「知っている程度」が20.6%です。

その一方、「あるのを知らなかった」が69.4%を占めています。

図 「市民公益活動サポートセンター」の利用の有無



(16) 今後の利用意向 (問 28)

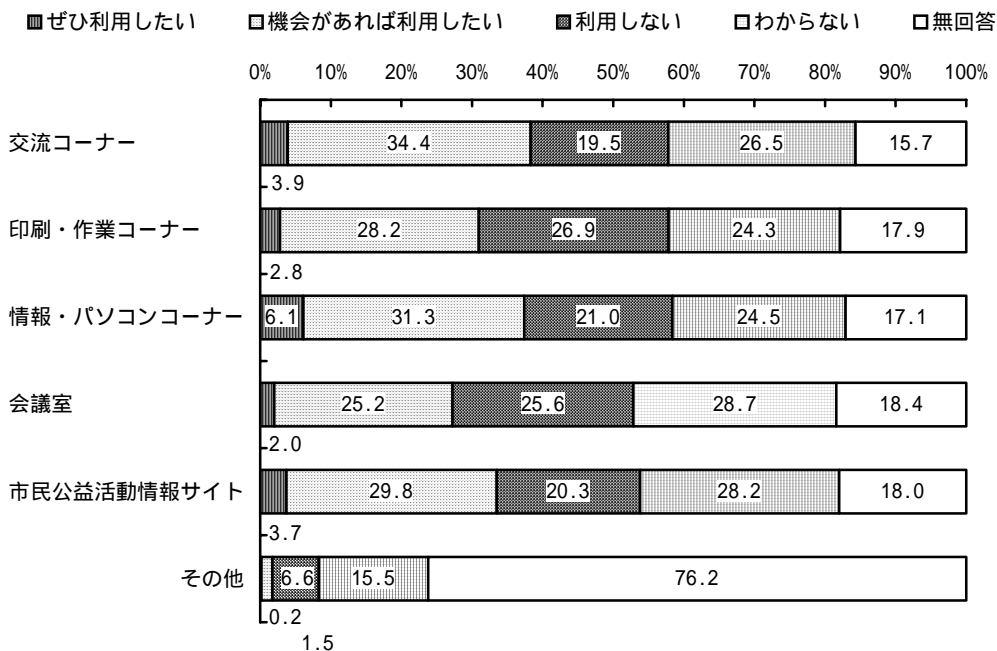
“利用したい”は『交流コーナー』、『情報・パソコンコーナー』、『市民公益活動情報サイト』がともに3割以上。

「市民公益活動サポートセンター」の今後の利用意向をたずねました。

その結果、「ぜひ利用したい」と「機会があれば利用したい」をあわせた、“利用したい”は『交流コーナー』が38.3%、『情報・パソコンコーナー』が37.4%、『市民公益活動情報サイト』が33.5%で比較的高くなっています。

図 今後の利用意向

(回答者総数：543人)



## 第7節 情報ネットワークづくりの推進について

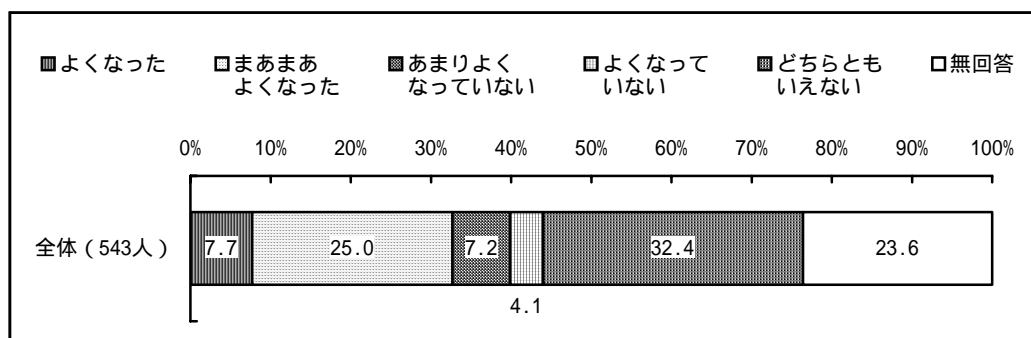
### 7-1 取り組みに対する評価（問31）

「情報ネットワークの推進」は、“よくなった”が3割強、“よくなっていない”が1割強。

インターネットを活用したシステムの導入など、情報ネットワークづくりの推進については、「よくなった」が7.7%、「まあまあよくなった」が25.0%で、あわせると“よくなった”が32.7%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が7.2%、「よくなっていない」が4.1%で、あわせると“よくなっていない”が11.3%です。

図 情報ネットワークづくりの推進 (回答者総数：543人)

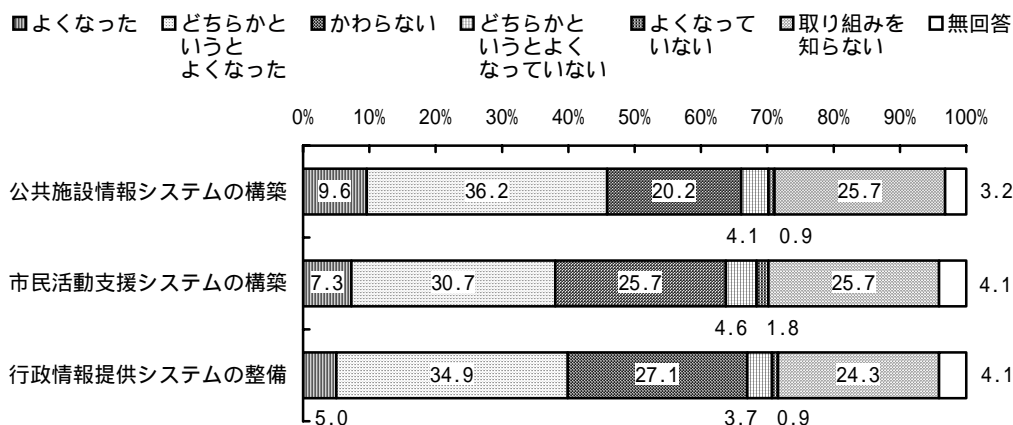


### 7-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『公共施設情報システムの構築』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというによくなった」をあわせた“よくなった”が『公共施設情報システムの構築』では45.8%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)





### 7-3 関連設問

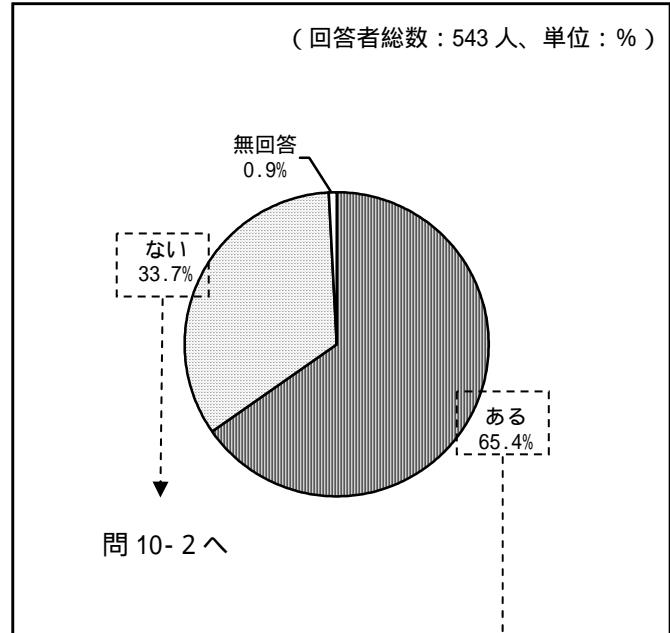
#### (1) パソコンの所有の有無(問10)

「ある」が6割以上。「ない」が約3割。

自宅にパソコンを所有しているか、たずねたところ「ある」が65.4%を占めています。

その一方、「ない」が33.7%です。

図 パソコンの所有の有無



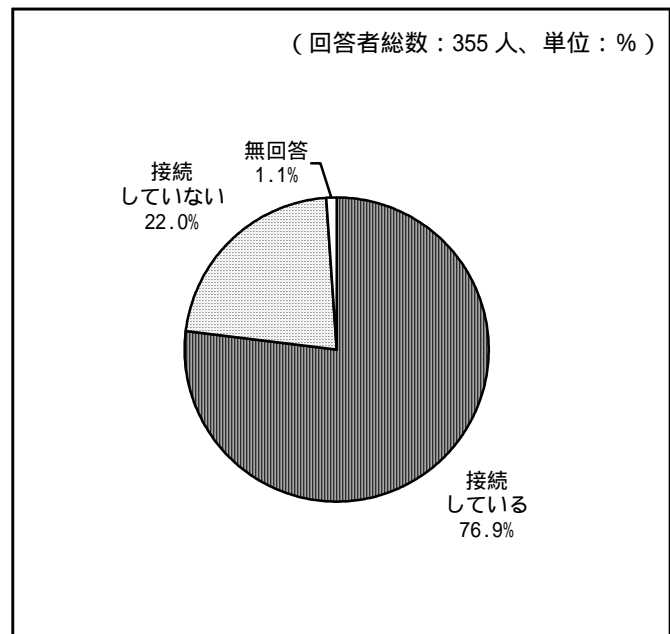
#### (2) インターネット接続の状況(問10-1)

現在、「接続している」が8割弱。

パソコンを所有していると回答した人に、自宅のパソコンをインターネットに接続しているか、たずねました。

その結果、「接続している」が76.9%を占め、「接続していない」は22.0%です。

図 インターネット接続の状況



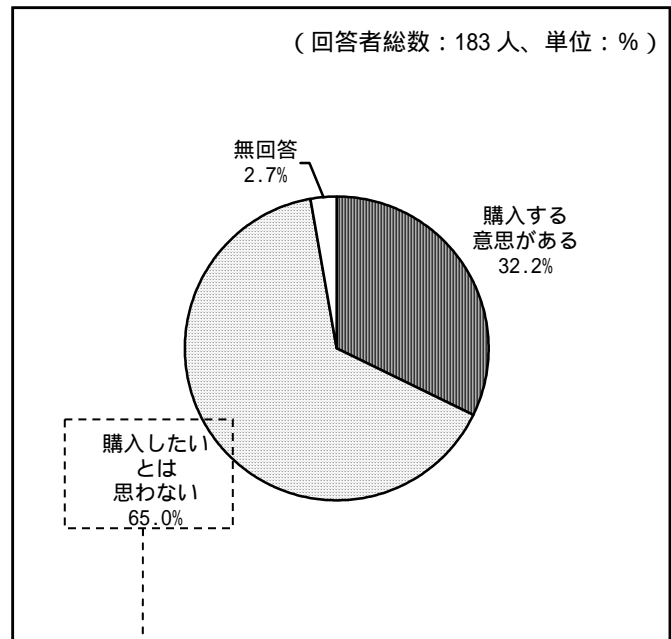
(3) パソコン購入の意向 (問 10 - 2)

今後、「購入する意思がある」が約3割。

パソコンを所有していないと回答した人に、今後のパソコンの購入意向をたずねました。

その結果、「購入する意思がある」が32.2%である一方、「購入したいとは思わない」が65.0%を占めています。

図 パソコン購入の意向



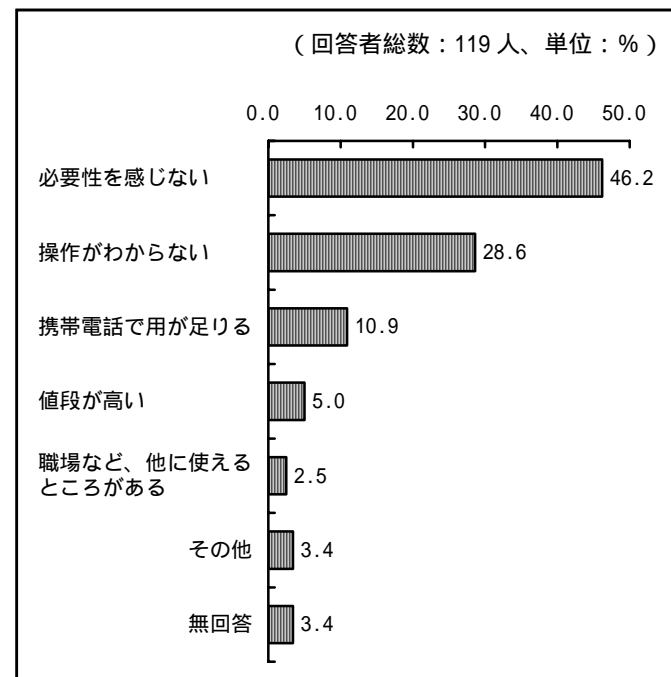
(4) 購入しない理由 (問 10 - 3)

「必要性を感じない」が約5割。

さらに、現在、パソコンを所有しておらず、今後もパソコンを購入したくないと回答した人に購入したくない理由をたずねました。

その結果、「必要性を感じない」が46.2%で最も高く、次いで「操作がわからない」が28.6%で続いています。

図 購入したくない理由



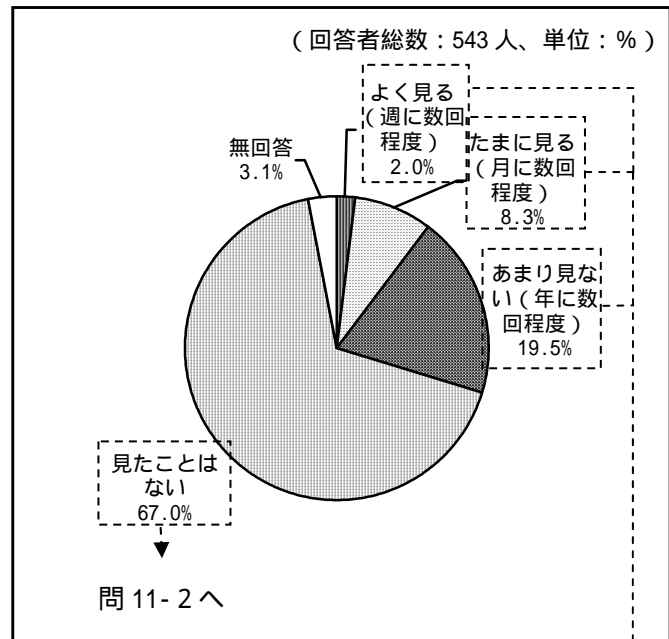
(5) 市のホームページの閲覧の有無 (問 11)

“見る(週～月に数回)”が1割程度。

職場や家庭等のパソコンで、「佐倉市のホームページ」を閲覧したことがあるか、たずねたところ、「よく見る(週に数回程度)」が2.0%、「たまに見る(月に数回程度)」が8.3%をあわせると、“見る”が10.3%です。

また、「あまり見ない(年に数回程度)」が19.5%、さらに「見たことはない」が67.0%で多くを占めています。

図 市のホームページの閲覧の有無



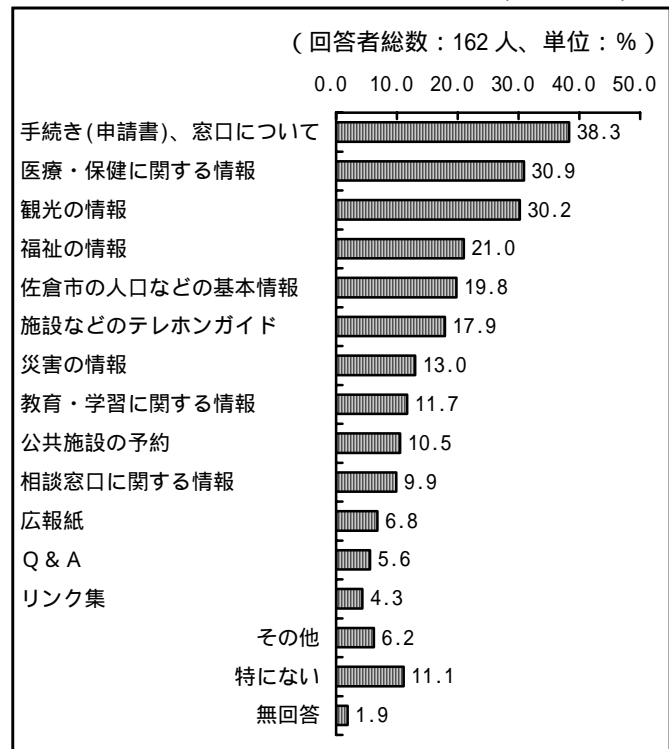
(6) 市のホームページで役に立った情報 (問 11-1)

「手続き(申請書) 窓口について」や「医療・保健に関する情報」、「観光の情報」が、比較的高い。

佐倉市のホームページを「よく見る」、「たまに見る」、「あまり見ない」と回答した“見たことがある”人に、役に立った情報についてたずねました。

その結果、「手続き(申請書) 窓口について」が38.3%で最も高く、次いで「医療・保健に関する情報」が30.9%、「観光の情報」が30.2%で続いています。

図 市のホームページで役に立った情報(複数回答)



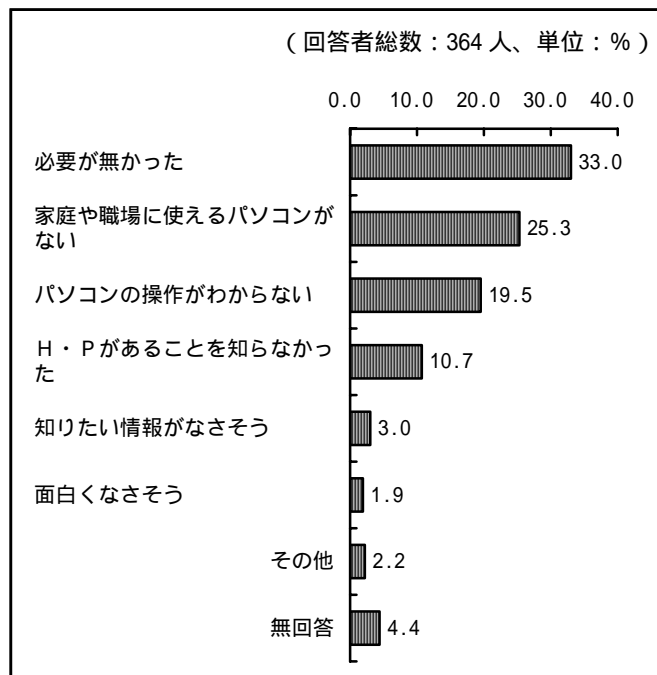
(7) 市のホームページを見たことがない理由(問11-2)

「必要が無かった」と「家庭や職場に使えるパソコンがない」が、比較的高い。

佐倉市のホームページを「見たことがない」と回答した人に、その理由をたずねました。

その結果、「必要が無かった」が33.0%を占めているものの、「家庭や職場に使えるパソコンがない」が25.3%で、比較的高くなっています。

図 市のホームページを見たことがない理由



## 第8節 平和で思いやりのある地域社会づくりについて

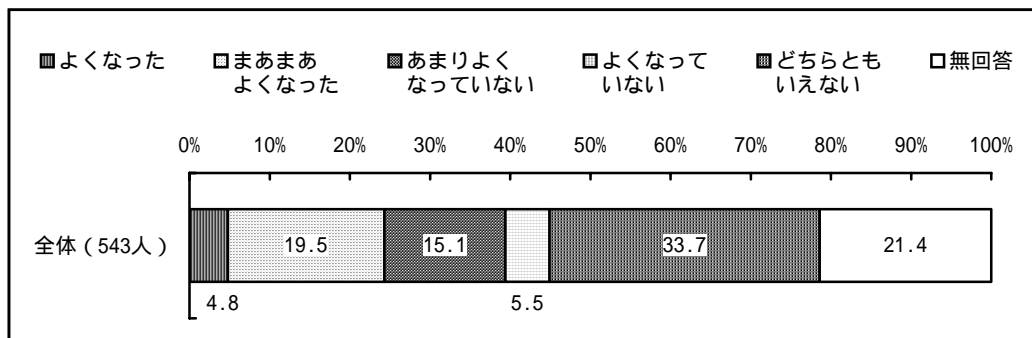
### 8-1 取り組みに対する評価（問31）

「平和で思いやりのある社会づくり」は、「よくなった」「よくなっていない」ともに2割程度。

平和意識や人権意識を高める講演会など、平和で思いやりのある社会づくりについては、「よくなった」が4.8%、「まあまあよくなった」が19.5%で、あわせると「よくなった」が24.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が15.1%、「よくなっていない」が5.5%で、あわせると「よくなっていない」が20.6%です。

図 平和で思いやりのある社会づくり (回答者総数：543人)

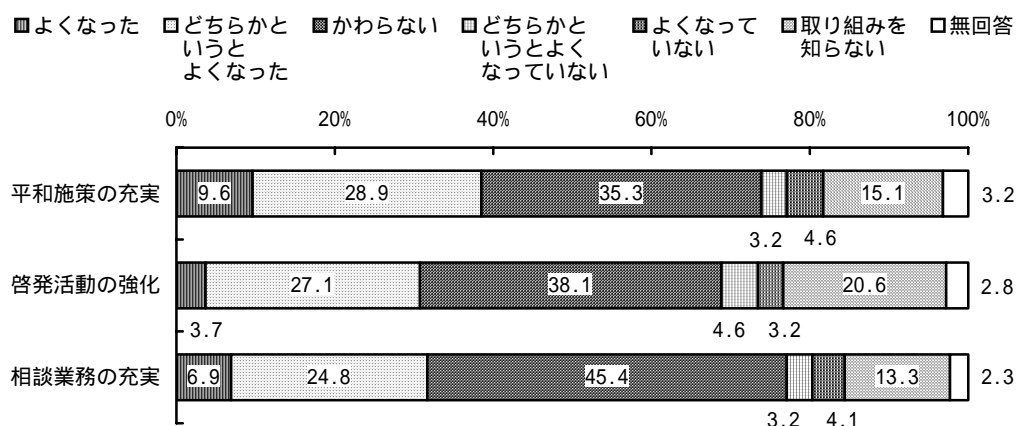


### 8-2 施策に対する満足度（満足度評価）

「よくなった」がどれも3割台となっており、『啓発活動の強化』では30.8%。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというによくなった」をあわせた「よくなった」がどれも3割台となっており、最も評価が低いのは『啓発活動の強化』で30.8%となっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



## 第9節 男女共同参画社会の実現について

### 9-1 取り組みに対する評価（問31）

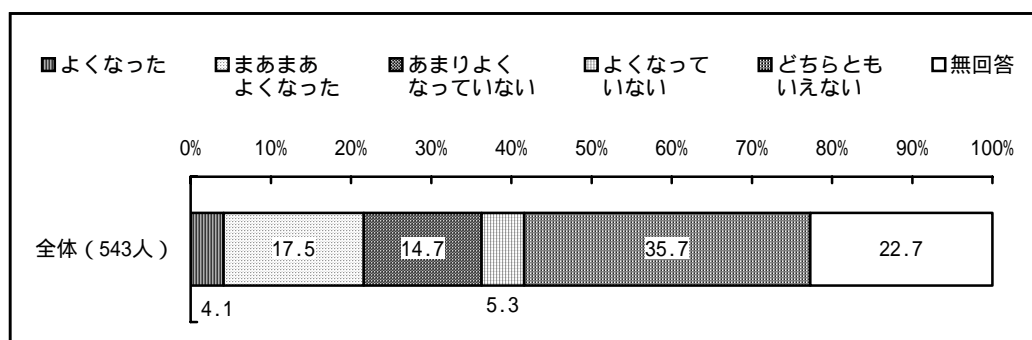
「男女共同参画社会の実現」は、“よくなった”“よくなっていない”ともに2割程度。

佐倉市男女平等参画推進条例の制定など、男女共同参画社会の実現については、「よくなった」が4.1%、「まあまあよくなった」が17.5%で、あわせると“よくなった”が21.6%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が14.7%、「よくなっていない」が5.3%で、あわせると“よくなっていない”が20.0%です。

図 男女共同参画社会の実現

（回答者総数：543人）



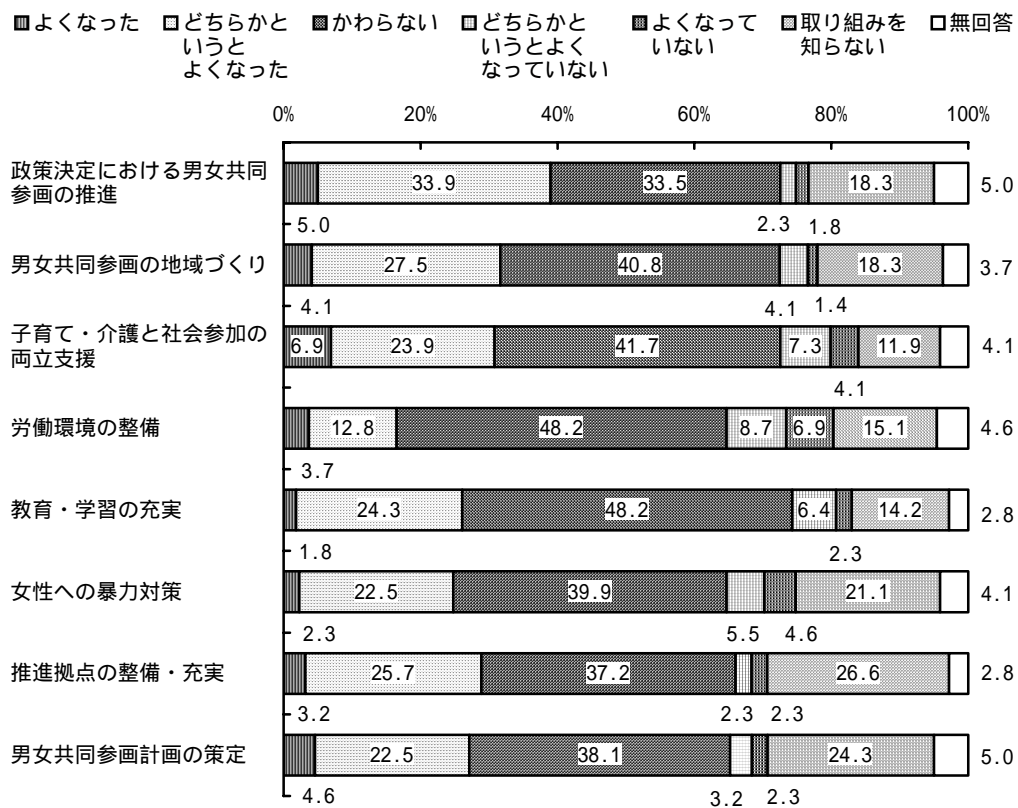
## 9-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”がすべて4割を下回り、特に評価が低いのは『労働環境の整備』で1割台。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『労働環境の整備』で16.5%と1割台となっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



### 9-3 関連設問

#### (1) 様々な場面における男女平等感 (問29)

「平等になっている」は『家庭の中で』や『学校教育の中で』、『法律や制度の上で』が比較的高い。その一方、「平等になっていない」は『社会通念や習慣、しきたりの中で』や『職場の中で』が比較的高い。

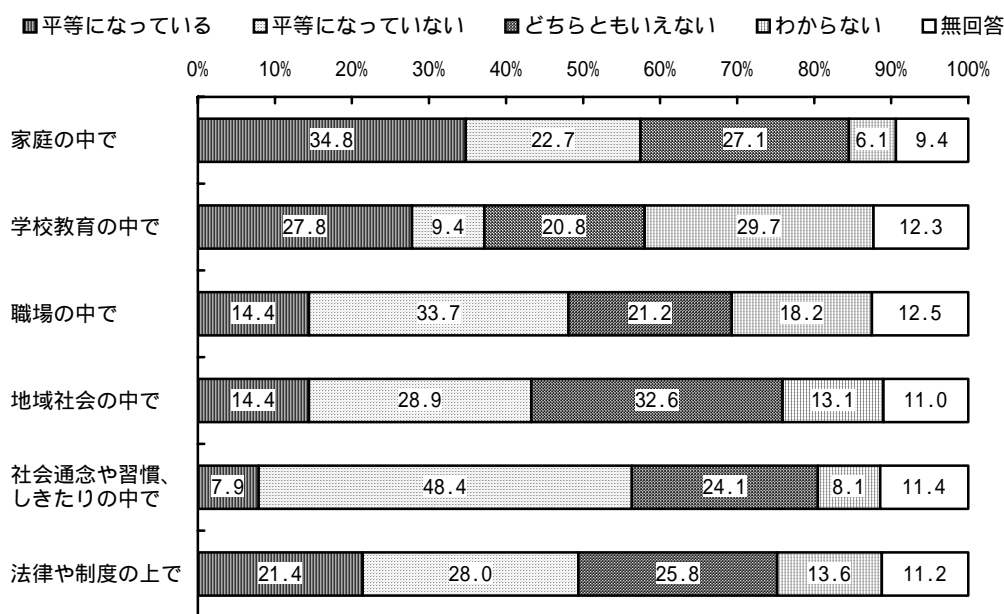
市では佐倉市男女平等参画推進条例を制定し、男女平等参画社会の実現をめざしています。

市民に様々な場面における男女平等感をたずねたところ、「平等になっている」は『家庭の中で』が34.8%、『学校教育の中で』が27.8%、『法律や制度の上で』が21.4%で比較的高くなっています。

その一方、「平等になっていない」は『社会通念や習慣、しきたりの中で』が48.4%で特に高く、次いで『職場の中で』も33.7%で比較的高くなっています。

図 様々な場面における男女平等感

(回答者総数：543人)





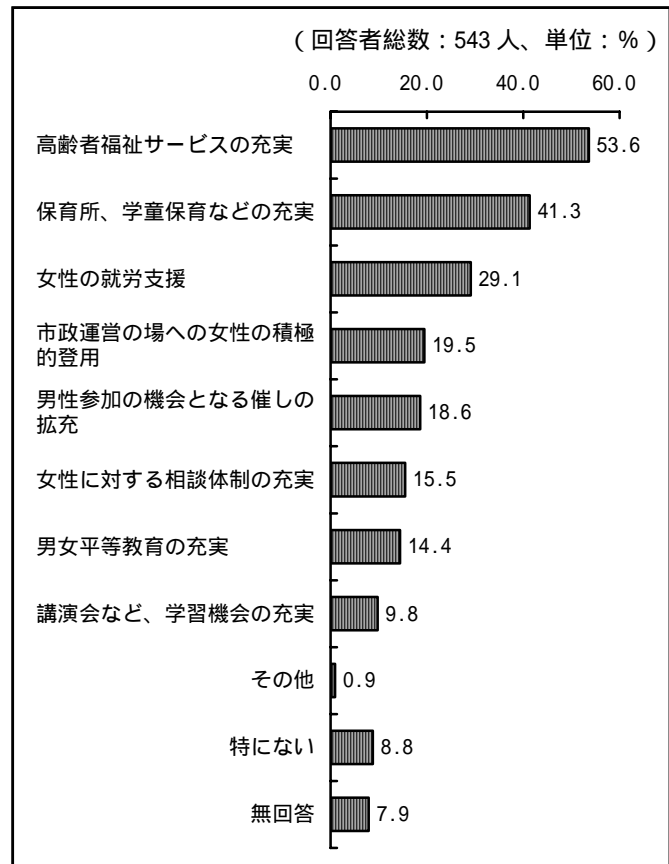
(2) 男女平等参画社会推進のために望むこと(問30)

「高齢者福祉サービスの充実」が高い。

今後、佐倉市において男女平等参画社会づくりを推進していくために、市に望むことをたずねたところ、「高齢者福祉サービスの充実」が53.6%で最も高くなっています。

次いで「保育所、学童保育などの充実」が41.3%、「女性の就労支援」が29.1%で続いています。

図 男女平等参画社会推進のために望むこと(複数回答)



## 第10節 重点的に取り組むべき施策

### 10-1 重点的に取り組むべき施策（問32）

「健全な財政運営」が最も高く、次いで「計画的・効率的な行政運営」が続く。

「まちづくりの推進について」これからの5年間（平成18年～22年度）重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、納税啓発や歳入・歳出の執行管理など「健全な財政運営」が46.2%で最も高くなっています。

次いで、総合計画の策定や行政改革の進捗管理など「計画的・効率的な行政運営」が34.3%で続いています。

図 重点的に取り組むべき施策（複数回答）

